

第1回検討作業班に関する 補足説明

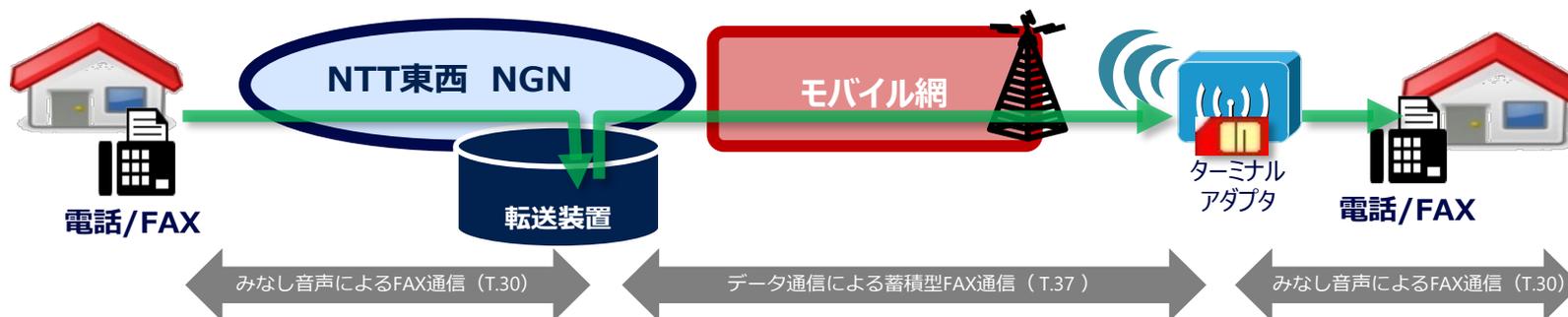
2020年6月29日

日本電信電話株式会社
東日本電信電話株式会社
西日本電信電話株式会社

- 現行のFAXに関する通信方式や品質確認手順に関する省令およびTTC標準は下表の通りであり、ワイヤレス固定電話においても基本的に準拠
- 蓄積型FAX方式を用いたサービスは市中に導入実績有※
※ホームプラス（KDDI）、BizFAX（NTTコミュニケーションズ）、D-FAX（東京テレメッセージサービス）、ひかり電話FAXお知らせメール（NTT東西）等

	省令、標準 等	詳細
事業用電気通信設備規則	アナログ電話相当の機能を有するインターネットプロトコル電話用設備	ファクシミリによる送受信が正常に行えること
TTCでの規定	JT-T30 一般交換電話網における文書ファクシミリ伝送手順	みなし音声によるFAX通信の手順を規定
	JT-T37 蓄積交換型のインターネットファクシミリデータ伝送手順	蓄積型FAX通信の手順を規定
	TR-1054 IP電話の通話品質測定ガイドライン	最遠系にて最繁の月に4回、FAX通信を12回ずつ実施し、以下の不良通信の有無を確認 ・通信エラー発生 ・画像の欠落 ・PPR（再送要求）が4回以上連続で発生した通信

(提供方式イメージ)



品質測定時の条件について

- 現行の0ABJIP電話等の測定条件は省令やTTC標準にて規定されており、ワイヤレス固定電話においても基本的に現行の測定条件に則ることを検討している
- なお、第1回作業班で実地サンプル測定結果を提示したが、今後の検討で参考にしていただく重要な数値であることを踏まえ、可能な限り実地測定のサンプル数を増やすことが望ましい（作業班での測定等を想定）

【接続品質（接続遅延・呼損率）、総合品質、ネットワーク品質】に関わる測定条件

	告示での規定	TTCでの規定		ワイヤレス固定電話での測定方法（検討中）
		JJ-201.01 IP電話の通話品質評価方法	TR-1054 IP電話の通話品質測定ガイドライン	
測定方法	-	-	総合品質、ネットワーク品質：試験呼 接続遅延、呼損率：全呼測定または試験呼	現行条件にて実施 （ネットワーク品質に関わる条件はPOLQA測定の条件として読替）
測定区間	できる限り、品質の劣化が生じると見込まれる条件	総合品質、ネットワーク品質：遅延やパケットロスが限界値に近い2点間 接続遅延、呼損率：-	総合品質、ネットワーク品質、接続遅延：距離的な最遠系(アクセス区間の距離は加味しない) 呼損率：-	
測定期間	-	総合品質、ネットワーク品質：24時間に渡った代表値 接続遅延、呼損率：-	事後決定の場合：24時間365日計測 事前決定の場合：前年度データを精査し決定	
測定頻度	1時間ごと	-	総合品質、ネットワーク品質：1時間あたり5回測定 接続遅延、呼損率：試験呼測定の場合1時間あたり5回測定	
1呼あたりの測定時間	-	総合品質、ネットワーク品質：1～10分 接続遅延、呼損率：-	総合品質、ネットワーク品質：2分30秒から3分 接続遅延、呼損率：-	
報告日選定	最繁忙時間帯について1年間における呼量および呼数又は予測呼量及び予測呼数の多いものから順に30日	-	事後決定の場合：告示に従い30日を選定 事前決定の場合：前年度データを精査し決定	
報告値算出	-	総合品質、ネットワーク品質：平均値または95%値 接続遅延：- 呼損率：-	総合品質、ネットワーク品質：品質が悪い5%を除いた95%値 接続遅延：最繁忙時(1時間)での最悪値 呼損率：最繁忙時の総呼損量を総呼数で除す	

- 技術的には、ワイヤレス固定電話ユーザはひかり電話ユーザとして、発着信、他事業者接続を行う方向で検討中
- NTT東西が選定する携帯事業者（ワイヤレス固定電話ユーザを収容する事業者）とはIP-IPで接続（NTT東西と当該携帯事業者の接続においてはPSTNを介さない）できていることが前提
- PSTNマイグレ期間中における、ワイヤレス固定電話ユーザと他事業者との接続ルートについては、NTT東西ひかり電話ユーザと他事業者との接続ルートに準じる

